

米CPI、伸びは鈍化も大幅利上げ濃厚か

ポイント① 米CPIの伸びは鈍化

9月13日に発表された8月の米CPI（消費者物価指数）は前年同月比で8.3%の上昇と、市場予想を上回りましたが、7月の8.5%から鈍化しました。一方、変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIは、前年同月比で6.3%の上昇となり、7月の5.9%から加速しました。CPIは2カ月連続での鈍化となり、米国のインフレがピークアウトを迎えていることが観測され始めていますが、依然としてFRB（米連邦準備制度理事会）が掲げる物価安定目標の2%を大きく上回っている状況です。

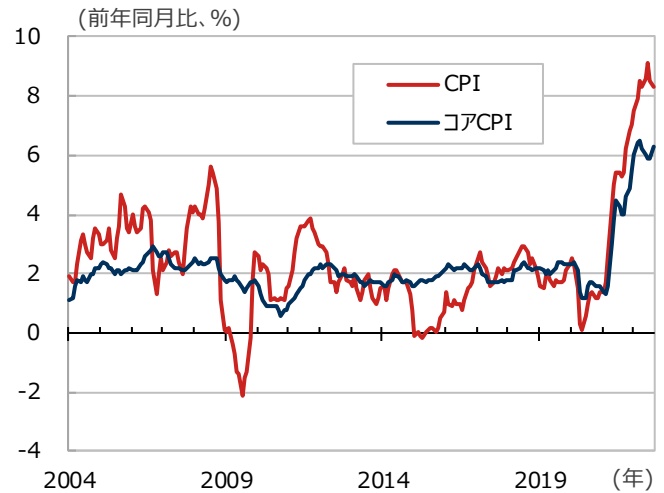
ポイント② コアCPIは高水準が続く

8月のCPI鈍化の背景には、これまで上昇していたガソリン価格の下落が大きく寄与したと考えられます。一方、サービス項目の多くを占める住居費は依然として上昇しています。賃貸居住者は自分の給与で払える物件を決めるため、足元の賃金上昇加速が家賃を押し上げているようです。8月に行なわれたジャクソンホール会議では、FRBのパウエル議長がインフレ抑制に向けたタカ派的な姿勢も示しており、FRBが金融政策に際して注視しているコアCPIは加速を続けていることから、今後もハイペースの利上げが続きそうです。

ポイント③ 年内の大幅利上げが濃厚

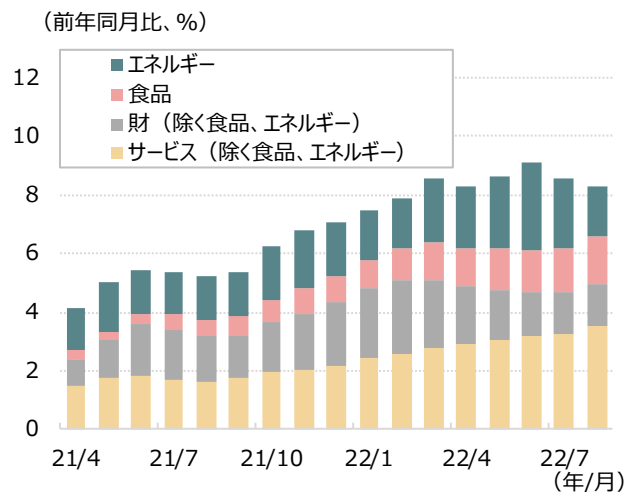
今回のCPI発表後、米国株の主要3指数は大幅下落しました。3月の6.5%をピークに減速していたコアCPIの伸びが再び加速したことで米金融引き締め強化への警戒が高まったことが要因だと考えられます。9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）だけではなく、11月会合の利上げ予想も引き上げられており、年内の大幅利上げが濃厚と考えられます。

米CPIの推移



期間：2004年1月～2022年8月、月次
 (注) コアCPIはエネルギー、食品除く
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米CPIの項目別寄与度の推移



期間：2021年4月～2022年8月、月次
 (出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 9月16日 米ミシガン大学消費者マインド指数 (9月)
- 9月21日 米金融政策発表